土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調　査　名　一級河川　太田川水系　根谷川支川９　通常砂防事業に伴う業務委託

事業名 または 工事名

調査目的及び調査対象　砂防 砂防

ボーリング名	Bor.No.1	**調査位置**	広島県広島市安佐北区可部町上町屋　地内			**北緯**	34° 32′ 54.8364″
発注機関	広島県西部建設事務所			**調査期間**	2023年　6月　5日 ～ 2023年　6月　7日	**東経**	132° 31′ 49.7406″
調査業者名		**主任技師**		**現場代理人**		**コア鑑定者**	**ボーリング責任者**
孔口標高	T.P. 99.34m	**角度**	180° 上 90° 0° 0°	**方位**	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	**地盤勾配**	水平0° 鉛直 90° 0°
総削孔長	7.00m	**使用機種**	**試錐機**	東邦地下工機　D1-B48	**エンジン**	ヤンマー　NFD-12	**ポンプ** 東邦地下工機　BG-3C

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名（模様）	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	地質時代名	記事	孔内水位／測定月日
	98.54	0.80		礫混じり砂質粘土		暗褐			第四紀	表土に相当。 少量の細礫分を含んだ細粒土からなる。 木根をやや豊富に混入している。 マサ土質な土層ではない。	06/05 0.49
1	97.89	1.45		礫混じりシルト質砂		褐	rd2			マサ土質な砂（中細砂優勢）と土壌化したシルト分が混じる。全体に細礫分を含有する。貫入試料は少し湿っている。本層の成因は明確でない。	
2	96.84	2.50		礫混じり砂		淡褐	rd3			φ20mm程度以下の中礫～細礫を不規則に混入する。 砂分は粗中砂主体。 全体に細粒分を少量含む（シルト質とするほどではない）。 土石流堆積物に相当する。	06/06 06/06 2.35
3	95.44	3.90		玉石混じり砂礫		淡灰褐	rd5			玉石分はL=5.5～14.5cmで採取。 硬質なものと軟質なものがある。 その他の礫分はφ40mm程度以下で、中礫分が多い。 マトリクスはシルト混じりの粗砂からなり、マサ土質が強い。 貫入試料は少し湿っている。 土石流堆積物に相当する。	
4	92.34	7.00		風化花崗岩		灰褐			白亜紀	岩芯風化により岩組織はやや明瞭さに欠く。 明らかに完晶質とは言い難く、厳密には花崗斑岩の可能性あり。 概ね軟質礫状コアを呈すが、円形コア形状は維持しうる。 コアを強く押せば崩れ、ハンマーで軽く叩けば潰れる程度の固さである。 6.7m以深、わずかにコア状況が好転し、角礫状のものが多くなる。 ただし、N値に変化は認められない。 7mの貫入試料、他の深度に比べて含水が少し高い。 【DH級岩盤、軟岩Iに相当する】	06/07 4.27 06/07 5.02

標準貫入試験

深度－N値図（0 10 20 30 40 50）

N値	深度 (m)	100mmごとの打撃回数 0～100	100～200	200～300	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
7	1.15 / 1.45	3	2	2	7/300		
22	2.15 / 2.45	6	8	8	22/300		
136	3.15 / 3.26	35	15/10		50/110	110	
54	4.15 / 4.43	20	17	13/80	50/280	280	
107	5.15 / 5.29	30	20/40		50/140	140	
125	6.15 / 6.27	33	17/20		50/120	120	
125	7.15 / 7.27	35	15/20		50/120	120	

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	原位置試験	削孔月日
					6/5
					6/6